

## 第 107 回 REAAA 評議員会出席報告

黒 田 孝 次\*

### はじめに

橋場（日本道路協会 代表評議員）、山川（推薦評議員）、鳥居（推薦評議員）と黒田（高速道路調査会 代表評議員）の 4 名がフィリピン・マニラでの評議員会（7 月 20 日開催）に参加した。今回の第 107 回 REAAA 評議員会は今年 3 月にインドネシア・バリ島で開催された第 15 回 REAAA 総会（同時に第 105 回、第 106 回 REAAA 評議員会の開催）後の初めての評議員会で、恒例により、選出された Momo 会長の出身国フィリピンで開催された。今回のマニラでの評議員会は新しく選任された会長、3 名の副会長、財政長、事務総長そして今期の評議員がそろって今後の第 15 期 REAAA 活動の方向性を議論する大切な場になった。ここでは、第 107 回評議員会、そして同時に開催された第 12 回若手技術者会議（YP 会議）、第 5 回ビジネス・フォーラムについて報告し、次に鳥居氏による REAAA TC 2 技術委員会の活動の報告の 2 部に分けて会議報告をする。

### 1. 第 107 回評議員会（7 月 20 日開催）の概要報告

#### (1) 会長挨拶および評議員会の成立

今回の評議員会はフィリピン道路技術者協会（Road

Engineers Association of Philippine, REAP）の 2 年に 1 度の総会に合わせて開催している。Momo 会長は REAAA 会長、そして REAP 会長の両方の役割を果たし、両会議を成功させたい。実質的にはこの評議員会が当期の最初の議論の場であり、副会長、財政長、事務総長、評議員の最初の仕事の間である。議論だけではなく課せられた責任を果たす評議員会としたい。また、技術委員会においては世界道路会議との協調を実現しながら強化を図っていききたい。ここマニラでの評議員会を充実したものにするため皆さんの闊達な議論を期待したい。

#### (2) 議事録確認

次いで第 105 回、第 106 回評議員会の会議録確認が行われた。この評議員会は今年 3 月に開催された第 15 回 REAAA 総会と同時に開催されたものであり、前期（第 14 期）の最終評議員会、そして当期（第 15 期）の最初の評議員会として開催された。このため、多くの評議員・オブザーバーが参加した評議員会となった。また、同時に HORA（道路機関長会議）、第 4 回ビジネス・フォーラムも開催された。第 105 回、第 106 回評議員会議（2017 年 3 月 22 ～ 23 日、インドネシア・バリ島ヌサドゥア）の議事録は異議なく承認された。

\* REAAA 高速道路調査会 代表評議員

### (3)財務報告

今回の財務報告は2017年1月～5月末日までの5カ月間を対象に纏められたものであるが、REAAAの財務会計の問題点を明らかにしたものである。

その問題点とは、昨年度からの幽霊会員（会費未納の会員）の解消の努力にも係わらず、未納会費の回収が多く、この国のチャプターで進んでいないことである。REAAAの財務諸表の内、収入（Income）で表される数字は会員からの会費収入見込みで示されており、実際に振り込まれた現金額ではない。この数字（会費収入見込み）は何年も会費振込みがない会員からの会費収入を見込んでいる。

ただし、この対象5カ月の収入・支出については納入見込みのない会費収入についてはカウントしていない表の取りまとめを行っている。その結果、収入はRM 247,689、支出はRM238,521となり、黒字の傾向である。その理由はフィリピンが会費納入を促進してこの5カ月の間に幽霊会員の解消、新規会員の入会を進めたことが大きな要因となっている。

そして、財政長からフィリピンへの感謝の意が表明され、反対にこの課題に未着手のチャプター、各国の道路協会に会費の納入について協力要請が出された。特に、未納額の大きいマレーシア、オーストラリア、インドネシアには会員個人に会費納入を直接働きかけ、納入の促進を図るよう要請があった。3カ月以内と期限を切ったの催促である。日本の未納額はRM1,400（約45,000円）であり、他国に比べて少額ではあるが同じ努力（会員個人に直接に会費納入を働きかけ、会費納入の促進を図る）の要請がなされた。

### (4)事務局長レポート

インドネシアのバリで2017年3月21～24日に開催された第15回REAAA総会、そして同時に開催された次の行事が成功裏に終了したことに対してインドネシア道路開発協会（IRDA）に感謝の意を表した。

表一 1 国別 REAAA 会員数

(2017年6月末現在)

		名誉会員	生涯会員	通常会員	準会員	団体会員	合計
1	支部						
	1.1 オーストラリア	6	2	102		2	112
	1.2 ブルネイ			64		1	65
	1.3 韓国	3	27	17		5	52
	1.4 ニューゼaland	3	1	65		22	91
	1.5 フィリピン	2	189	14		4	209
	1.6 REAM(マレーシア)	4	101	413	32	57	607
2	国・地域						
	2.1 パーレーン		2				2
	2.2 バングラデシュ			2			2
	2.3 中国		1				1
	2.4 フィジー			2			2
	2.5 香港			1		0	1
	2.6 インド		4	0		1	5
	2.7 インドネシア	4		85	1	17	107
	2.8 イラン			2			2
	2.9 日本		1	156	1	28	186
	2.10 サモア			1			1
	2.11 シンガポール	1	0	14		2	17
	2.12 スリランカ		1	0			1
	2.13 スーダン				1		1
	2.14 スウェーデン			1			1
	2.15 台湾	4	4	3		6	17
	2.16 タイ	1	1	24		4	30
	2.17 英国		3	2			5
	2.18 米国			1		1	2
	合計	28	337	969	35	150	1,519

#### ①第105回評議員会

② YP（ヤング・プロフェッショナル・エンジニア）会議

#### ③第106回評議員会

④ REAAA ビジネス・フォーラム

⑤片平賞表彰

⑥ REAAA 三野ベストプロジェクト賞（新設）表彰

### (5)任命委員会関連

前回の第106回評議員会の任命委員会でREAAA憲章に定める副会長の最大人数を3名から4名に増やす議論に従い、憲章の改正（Amendment of REAAA Constitution）が発議され、直ちに作業に入ることが確認された。これは、マレーシア、オーストラリア、日本に加えてインドネシアからも副会長を選出するための作業である。

また、この副会長の責任分担は、マレーシアが収入促進（Enhance Revenue）、オーストラリアと日本が技術委員会（Technical Committee）、インドネシアが会員募集（Enhance Membership）担当するほか、

表一２ REAAA 評議員会名簿

会 長：Mr. Romeo S. Momo, (フィリピン)
副 会 長：Dato's Sri Ir. Dr. Rosian Md. Taha (Representing Public Works Department (PWS), マレーシア)
副 会 長：Mr. Hashiba Katsuji (日本道路協会 (JRA), 日本)
副 会 長：Mr. Peter Damen (Representing Australian Road Research Board (ARRB), オーストラリア)
直前会長：DR. Achmad Hermanto Dardak, (インドネシア)
前 会 長：Dato' Sri Ir. Dr. Judin Abdul Karim, (マレーシア)
事務総長：Ir. Haji Zulakmal Haji Sufian, (マレーシア)
財 政 長：Ms. Lydwina Marchiela Wardhani (Nonon), (インドネシア)
評 議 員
オーストラリア支部：Mr. Bremdan Marsh
ブルネイ支部：Mr. Mazian Salim
ブルネイ公共事業局：Haji Amer Hishamuddin
インドネシア公共事業局：Dr. Arie Setiadi
高速道路調査会：黒田孝次
インドネシア道路整備協会 (IRDA)：Ir. Hedyanto W. Husaini
韓国高速道路公団：Dr. Hyun Ho Choi
韓国支部：Mr. Sung Hwan Kim
マレーシア道路公団：Datuk Ir. Haji Ismail Md. Salleh
マレーシア道路技術協会：Dato' Ir. Dr. Ashaari Mohamad
NEW ZEALAND TRANSPORT AGENCY：Mr. Dave Bates
ニュージーランド支部：Mr. Grant Bosma
フィリピン道路技術協会：Mr. Willy Go
フィリピン支部：Mr. Jaime A. Pacanan
シンガポール LAND TRANSPORT AUTHORITY ： Mr. Yap Cheng Chwee
中国道路連盟：Dr. Yung-Hui Chou
台湾 CECI ENGINEERING CONSULTANT：Dr. Chou Lie-Liung
タイ道路協会：Mr. Aram Komsombut
推薦評議員
オーストラリア：Mr. Kieran Sharp
インドネシア：Mr. Rachman Arief Dienaputra
インドネシア PT WIJAYA KARYA (PERSERO) TBK ： Mr. Destiawan Soewardjono
日本：鳥居康政
日本：山川朝生
韓国：Mr. Kwang-Ung Hwang
韓国 MINISTRY OF LAND, INFRASTRUCTURE AND TRANSPORT (MOLIT)：Mr. Hyungpil Jun
マレーシア：Datuk Ir. Nik Airina Nik Jaffar
マレーシア：Dato' Ir. Dr. Dennis Genendra
マレーシア MALAYSIAN INSTITUTE OF ROAD SAFETY RESEARCH (MIROS)：Prof. Dr. Wong Shaw Voon

日本の副会長は YP および国際連携も役割として分担することになった。

さらに、推薦評議員 (Co-Opt Council Member) について、現在の 10 名から 15 名に増加することが議論された。この推薦評議員については REAAA 憲章に最大 10 名とされており、増員するには同じく憲章の改正が必要である。このため、今回の改正に副会長の増員、推薦評議員の増員を織り込むことに決定した。推薦評議員はベトナムやミャンマーの道路協会に、近い将来 REAAA に入会を促す折に推薦評議員に就任することにより、段階的にスムーズに入会できること



新会長、REAP 長と日本からの参加者

を目的とした増員である。

#### (6)技術委員会

技術委員会の報告は鳥居氏が別掲で行う。

#### (7)韓国チャプターから新しいファンドの提案 (Hwang Fund)

韓国代表の現推薦評議員であり、名誉会員である Mr. Kwang-Ung Hwang から申し出があり、韓国チャプターで承認された新しいファンドが提案された。日本の会長経験者である両氏の寄付金からなる片平ファンド、三野ファンドに次いで3つ目のファンドとなる。Hwang 氏から 10 万 US ドル (約 1,100 万円) の寄付によるもので、Hwang 賞は 4 年ごとの REAAA 総会に合わせて REAAA に貢献のあった個人 (1 人) に 10,000 US ドル (約 110 万円) が授与される計画である。受賞者選別の基準については、今後韓国チャプターを介して Hwang 氏の意向を確認することで了承された。

#### (8)その他

##### ● REAAA 第 108 回評議員会の開催

Peter Damen 副会長 (オーストラリア) から、次回の第 108 回評議員会を 2018 年 5 月 1 日にオーストラリア・ブリスベン (Brisbane) において開催する提案があり、了承された。同じタイミングでオーストラリア道路協会 Australia Road Research Board (ARRB) が総会を計画しているのでそれに合わせて評議員会を開催するようである。ただ、今回の評議員会と次回の 5 月 1 日の開催では 10 カ月の長きにわたる活動の空白

があり、それを避けるために今年11月を目安に会長・副会長を始めとする主要なメンバーで会議を開催することを検討することになった。

### ●ベトナムにおけるPIARC・TC E 3とのセミナー共同開催

2018年11月5～9日の5日間、ベトナム（ハノイあるいはダナン）においてPIARC・TC・E.3がベトナム運輸交通省（MOT）道路総局と共同でセミナーを開催する。PIARCの菊川副会長の代理として今評議員会に出席した田村氏からREAAAとの共同開催にしたいとの提案があり、共同開催に向けて調整に入るようになった。Momo会長からこの共同セミナーを開催することに合わせて、ベトナムでREAAA評議員会を開催することの可能性について考慮したいとの発言があった。もし、これが可能になれば第109回評議員会はベトナムで開催することになり、ベトナムがREAAAに参画する良い足掛かりになるとの認識である。これを実現させるには、会長以下REAAAのメンバーが力を合わせてベトナムのMOTに働きかける必要がある。

## 2. 第12回若手技術者（YP）会議

評議員会の前日、7月19日の午後2時から第12回YP会議が開催された。残念ながら当会議には日本のYP（6名）は参加できなかったが、橋場副会長、黒田の日本代表評議員が出席して面目を保った。地元のフィリピンからはYPに加えて多くのオブザーバーが参加したこともあり、参加者は40名を超えた。フィリピン、インドネシア、マレーシア、台湾のYPから発表があり、その発表に関連して日本の①2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けてのインフラ整備の考え方、②横浜や大阪で提案されているカジノ関連の総合エンターテインメント施設の考え方について多くの質問が集まった。このように、道路だけでなく、将来のNeedsをどのように予測し、どのようにインフラ整備を進めるべきかについて時間を割いて議論した。

## 3. 第5回ビジネス・フォーラム

評議員会最終日の7月21日の朝9時から第5回ビジネス・フォーラムが開催された。今回は豪華な発表

メンバーがそろい情報量の多い、入念に準備されたプレゼンがなされた。①ミャンマーの建設省道路局から招へいされたMyo女史がミャンマーの道路インフラの今後の整備方針について、②MPWHの次官であった、現マニラ・スカイウェイ O&M 会社社長のBonoan氏からフィリピンの有料道路について、③REAAA技術委員会委員長のSharp氏からオーストラリアの自動運転の進捗状況について、④インドネシア代表評議員 Soewardjono氏から用地買収に苦慮する大都市における構造物の建設について、⑤インドネシア道路総局長のMoerwanto氏からインドネシアの道路整備について、⑥マレーシア建設業界の国際化についてKamarani氏の発表の他に、⑦フィリピンMPWH次官で土木学会会長でもあるMaria Catalina Cabral女史がフィリピンでの道路投資について、⑧セブ島Cebu Cordova Link Expresswayプロジェクトについて現地SPC社長のAlfon氏から発表があった。午前中に終わるスケジュールであったにも関わらず、ビジネス・フォーラムが終わったのは午後2時を回っていた。

### あとがき

REAAAの第15期は順調に滑り出したようである。日本からは評議員2名、推薦評議員2名の合計4名が評議員として日本を代表することになった。橋場副会長を先頭にREAAAにおける日本のプレゼンスを確かなものにするには、この4名の活動に対しての組織的なバックアップが不可欠である。正会員、法人会員の確保、遅滞ない会費の納入、広告の募集、評議員会の日本における開催などマネージメント面の支援も欠



評議員会メンバー

くことができないが、その他に技術委員会でイニシアティブを執り日本の進んだ技術を REAAA 諸国に紹介することがわれわれの重要な仕事である。この技術委員会へ日本の若手技術者を含む技術者が参画するための支援も期待したい。特に日本の民間会社が持つ優

れた技術を REAAA 諸国に紹介するためにも、民間の若手技術者の REAAA での活躍、各国とのネットワークの形成が望まれる。そのためには民間会社の REAAA 活動へのさらなるご理解とご支援を期待したい。

## REAAA 技術委員会報告 / わが国の対応 / 舗装に関する取組み

鳥居康政\*

本報告では恒例の技術委員会の活動概要に加え、前段に国内で行われた PIARC との連携を含む打ち合わせの内容と提案および新規に動き出した舗装に関する活動予定について記述する。

### 1. K. Sharp 技術委員長報告

#### (1) 技術委員会名簿

2017年3月に始まった第16期(2017-2021)最初の技術委員会活動報告冒頭には会員各国を代表する11名の委員プラスYP(Young Professionals)代表委員(オーストラリアから台湾に変更)および日本、フィリピンから各1名、計14名の委員がお披露目された。構成は研究所を含む官公庁在職者6名、民間人を含む協会等代表者5名、大学の先生3名で、うち5名が評議員である。

#### (2) 技術委員会行動計画

提案された“Action Plan”には事前に了承された再構築技術委員会の“TOR”に添った“Goals”, “Strategy”および“Outputs”が示されている。具体的には技術的な成果をレポート(Technical reports /compendia)としてまとめること、機関誌“Journal”を定期的に(年1回)発刊するとともにPIARCとの連携を挙げている。またここでは「今はなき(now defunct)」舗装小委員会(TC-2)のまとめたTechnical Report #9 Compendium

on recycling of pavement materials”の発刊が新技術委員会の初仕事になるとの報告もあった。

#### (3) REAAA 機関誌 “Journal”

今回は2014年末以来発刊できなかった“Journal”の“Volume 19”について、本年内刊行の目途がついたことが報告された。第15回道路会議で片平賞を受賞した論文6編に、次点に相当する若手技術者の関与した論文2編を加え、さらにFEHRL(Forum for European National Highway Laboratories) スキャンニング・ツアー報文が内容となる予定である。

#### (4) REAAA と PIARC の関係

先に報告(本誌2017年6月号)したバリにおけるREAAAとPIARC関係者の打ち合わせ後に、PIARC側から今期間中(2016-2019)に両者協同でセミナーが開催できる可能性のある技術委員会(TC)に関する情報(下記8分野)が提供された。

- TC A.3 Risk management
- TC B.1 Road network operations and ITS
- TC B.3 Sustainable multimodality in urban areas
- TC D.1 Asset management
- TC D.3 Bridges
- TC E.1 Adaptation strategies/resiliency
- TC E.2 Environmental considerations in road projects and operations
- (TC E.3 Disaster management は既に協議が進行中)

\* REAAA (旧) TC-2 オーナー(世紀東急工業(株)常任顧問)

他方 REAAA 内では各国の技術委員会メンバー宛てに関心分野の照会が行われ、その結果が報告された。

- TC C.1 National Road safety policies and programs
- TC D.2 Pavements
- TC D.3 Bridges
- TC E.1 Adaptation strategies/resiliency
- TC E.3 Disaster management

#### (5)その他

会員各国の道路交通統計について適宜更新の要請がなされた。また ARRB と PIARC で合意されたという道路交通安全に関する共同ワークショップの開催計画が紹介された。時期は本年後半から 2018 年、内容はオーストラリアの事例が盛り込まれているという“Global Road Safety Manual (PIARC 2015 年)”に沿ったものであり、開催候補地として初回はオーストラリア、他にフィリピン、インドネシア、マレーシアが挙げられている。

### 2. 技術委員会アクション・プランに対する日本の見解

評議員会では技術委員会委員でもある橋場副会長が日本を代表し、かつ PIARC TC との関連を含めた選択理由を付して「災害マネジメント」、「橋梁」および「舗装」が関心分野であることを発表した。また、オーストラリアから提案されていた「道路交通安全」についても賛意を表するとともに、新技術委員会の組織、運営について作業グループ・メンバーの選定、評議員の支援など実質的な活動を促進する考え方も披露した。

### 3. PIARC TC との係わり

本評議員会の前に日本道路協会では PIARC 副会長でもある菊川国際委員長、PIARC TC 委員長 2 名（「橋梁」と「災害マネジメント」を担当）、REAAA 評議員 4 名、道路局担当者などが集まり、PIARC の現サイクル内で共同作業が可能と思われる具体的な課題、イベントについて打ち合わせを行った。上記の橋場副会長の見解もこの打ち合わせ結果を反映したものである。また、この場では田村 PIARC TC E.3（災害

マネジメント）委員長から直前に東京において両者共催でワークショップを開催したことと、2018 年 11 月に開催を予定しているベトナムにおけるセミナーに REAAA 側の参加を既に Sharp 技術委員長に働きかけていることが紹介された。

なお田村委員長は、菊川 PIARC 副会長の代理のかたちで評議員会に出席し、上述の 2 件について報告していただいた。加えて、他の道路関係機関が PIARC の TC に対応した組織（mirror group）を作り、共同作業を進める一般的なルールも準備されたが、Sharp 委員長を通じた REAAA 内での紹介と議論は継続案件となっている。ただし、評議員会の場ではベトナムでのセミナーに参加する方向で合意が得られた上に評議員会の同地での開催も検討することになった。

### 4. 舗装に関する委員会活動

Sharp 技術委員長の報告では“Technical Report # 8 Compendium on pavement maintenance and rehabilitation”については触れられなかったが、本件は評議員会以前に最終原稿が REAAA 事務局に送付され、ウェブに掲載可能な段階に至っていたためである。しかしながら、現時点（2017 年 7 月）では国内の（旧）TC-2 ワーキング・グループを中心に広告掲載を通じた支援者(社)を探し、製本・会員配布の方向で進めている。

また、（新）技術委員会の下に舗装に関するワーキング・グループを設立することは本評議員会で提案・合意されており、筆者も旧 TC-2 委員は待機状態であると発言する機会があった。ただし、他の分野との並びもあり技術委員会全体としての取組みには時間を要すると思われたため、2018 年に予定されている“SURF 2018”開催時と第 16 回 REAAA 道路会議（マニラ、2021 年 3 月）双方をターゲットとした大まかな活動予定を記し、旧 TC-2 メンバーに連絡を済ませたところである。内容は前者については同時期、同じ場所で開催される PIARC TC D.3 委員会への REAAA 側の参加であり、後者は今期間内の報告書の作成、道路会議開催時のワークショップの企画である。